

# 令和元年度埼玉県・学力学習状況調査について

## 1 調査の概要

### (1) 調査目的

本県の児童生徒の学力や学習に関する事項等を把握することで、教育施策や指導の工夫改善を図り、児童生徒一人一人の学力を確実に伸ばす教育を推進する。

### (2) 調査対象 小学校4年生～中学校3年生

### (3) 調査内容

#### ①教科に関する調査

小学校4年生～小学校6年生：国語、算数

中学校1年生：国語、数学

中学校2年生～中学校3年生：国語、数学、英語

#### ②質問紙調査 学習に対する意識、生活の様子、規律ある態度等

### (4) 実施時期 平成31年4月11日（木）

### (5) 調査の特徴

「児童生徒一人一人の学力がどれだけ付いているのか」という視点で、一年間の学習の積み重ねが「学力の伸び」として見えるようにする



自分の学力の伸びや成長を実感することで、学ぶ意欲と自信につながる

### (6) 「学力の伸び」について

学力の伸び＝昨年度と比較してより高度な問題に解答できるようになった状態

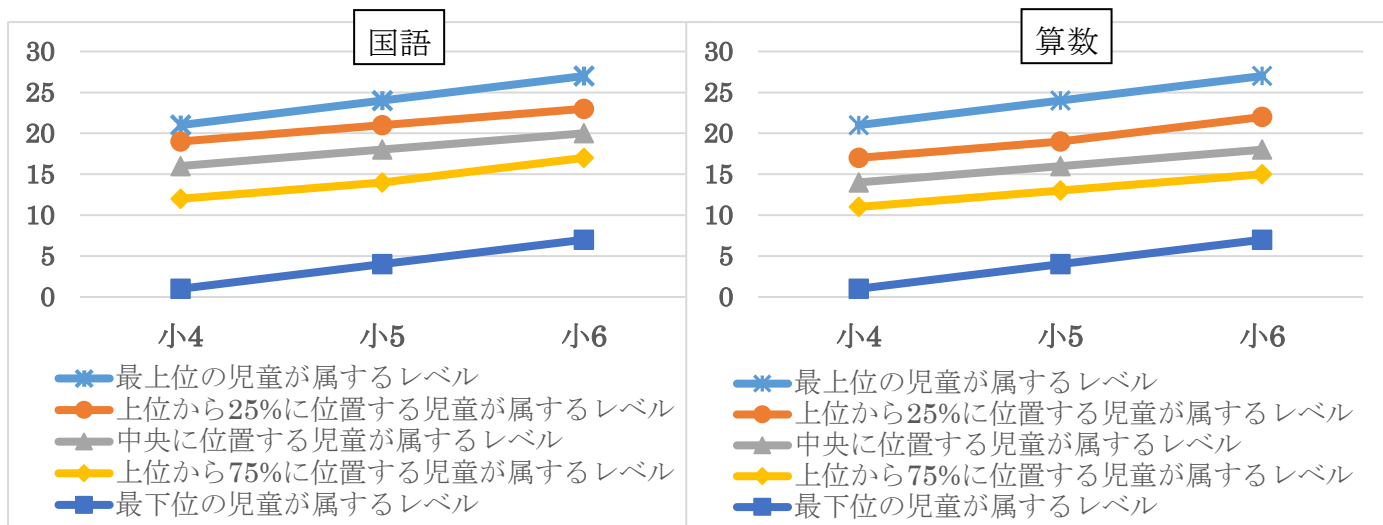
	小4	小5	小6	中1	中2	中3
レベル12						
レベル11						
レベル10						
レベル9						
レベル8						
レベル7						
レベル6						
レベル5						
レベル4						
レベル3						
レベル2						
レベル1						

児童生徒の個人結果票に「学力のレベル」をバーの位置で表示。前学年と今回のバーの位置を比べると学力の差＝「学力の伸び」がわかる。

左記の中学1年生の場合、小学6年から中学1年の1年間で「学力の伸び」が3段階上がったことになる。

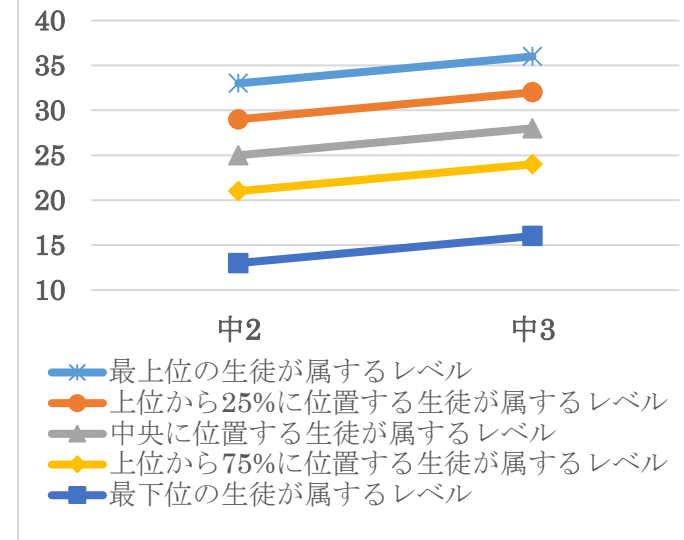
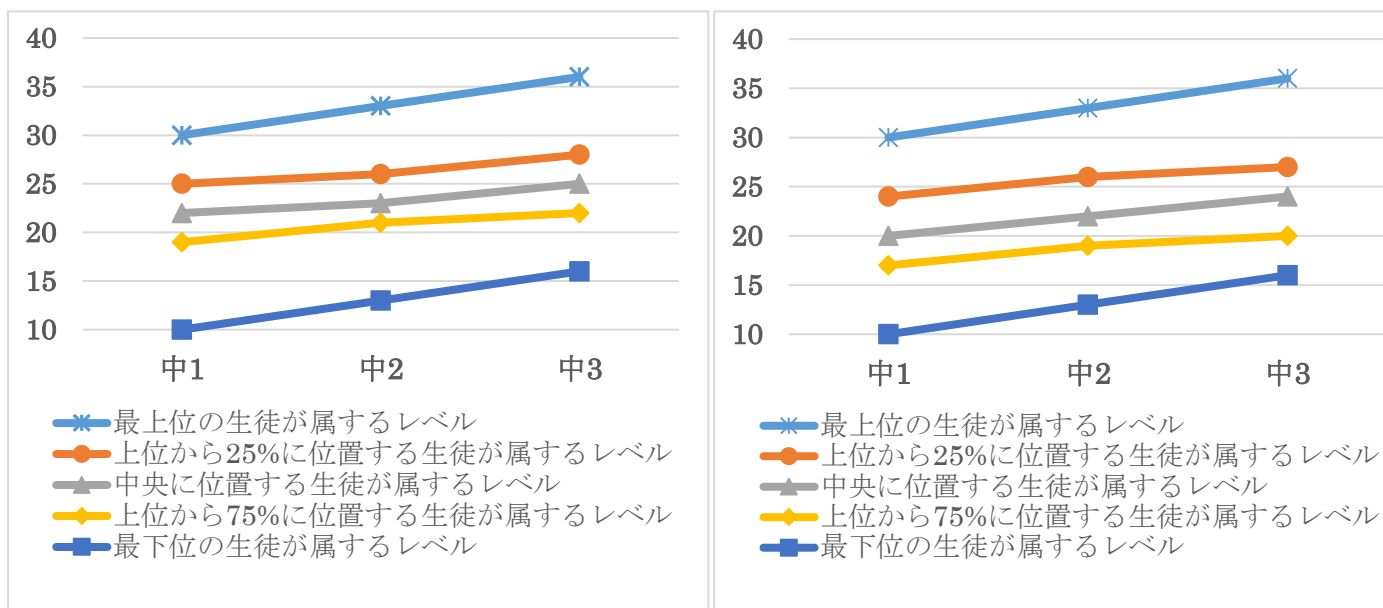
# 【市内小・中学校の「学力の伸び」について】

## (1) 小学校6年生



どの階層の児童も国語・算数ともに着実な学力の伸びが見られる。

## (2) 中学校3年生



どの階層の生徒も国語・算数・英語ともに着実な学力の伸びが見られる。

◎各校での丁寧な指導により、学習が苦手と思われる児童生徒の学力の伸びが大きくなっている。  
 ☆今後は、伸び悩んでいる階層への手立てを各校の実態に合わせて行っていく必要がある。

## 【調査結果の活用について】

- (1) 調査結果から児童生徒がどのような伸びや変容したか分析する。
- (2) 前年度に実施した取組や指導の成果を、結果の分析をもとに具体的に把握する。
- (3) 大きな「学力の伸び」が見られた学級について、その指導方法や取組を校内で共有し、授業改善につなげる。
- (4) 学校指導訪問の指導案に授業改善策を明記し、指導主事が教員を直接指導する。

## 【これまでの分析でわかった、学力を伸ばす取組】

<授業展開> 主体的・対話的で深い学びを実践している授業

考える必要感のある課題を設定する  
解決の見通しをもたせる  
→主体的に学習する土台をつくる



自力解決（十分な時間の確保）  
ヒントカード等の手立て  
→自分の考えをもつことで理解を深める



話し合い活動の効果的な実施  
→目的を持って話し合い理解を深める



課題に整合したまとめ、振り返りの実施  
→できるようになったことを実感し、次の時間への意欲を高める



<学級経営> 非認知能力を伸ばす学級経営

- ・「進んであいさつ、無言清掃、丁寧な字」の3つについて徹底させている。できなければ先生が率先垂範する。
- ・子供たちに向き合い、子供の気持ちをしっかりと捉えようとしている。
- ・子供たちへの声かけの充実。よいところを必ず伝えている。
- ・帰りの会でその日のよかったことを班で褒め合う取組を行う。